

二〇二二年八月六日

帰省子の過密予定の三日間

こすもす

畑のもの黄ばみ初めたる大暑かな

なつき

天窓を突き抜けて洩る蝉時雨

むべ

カーブする鉄路の先の陽炎ひぬ

よう子

釣り宿の軒網に干す鯖子かな

むべ

朝採れの庭のトマトを供へけり

なつき

薄めたる黒酢を飲んで暑に耐ふる

なつき

蝉時雨田舎ダイヤのバスを待つ

かかし

黒子めく楠の大樹の黒揚羽

ぼんこ

足湯して森林浴や蝉時雨

かかし

滴りのリズムに合はす呼吸かな

素秀

毎週句会秀句・みのもる選・二〇二二年八月七日

墓守が手遊びに植うミニトマト

なつき

葉先いまメトロノームや川蜻蛉

愛正

風蘭の香り待たるる夕べかな

わかば

秋近し山から通ふ風にきく

よし子

写し絵はいつも笑顔や夜の秋

はく子

ラムネ飲む昭和の味の懐かしく

宏虎

踏切の灼けしレールを跨ぎけり

よう子